



データ連携こそがIoTビッグデータ活用のカギ

～製品の高付加価値化を実現する

データ活用基盤構築まで～

1

会社紹介

2

データ活用基盤の構築 ～DataSpiderの導入とその効果～

3

今後の取り組み

Hitachi Zosen 日立造船株式会社

創業

1881（明治14）年4月1日（創業137周年）

本社所在地

大阪本社 大阪市住之江区南港北1丁目7番89号
東京本社 東京都品川区南大井6丁目26番3号

売上高

<連結> 3764億円
(2018年3月期)

従業員数

<連結> 10,377名
(2018年3月31日現在)

沿革

1881年

大阪鉄工所を
創立

1936年

日立製作所の
傘下へ

1943年

日立造船株式会社に
社名を変更

1946年

日立製作所の傘下
から離脱

2002年

造船事業を移管

2018年

「環境」の
日立造船です

主力事業

環境 = ごみ焼却発電施設

世界No.1

全世界で911件の
受注実績(2018.4.1現在)



英国 Riverside (778t/日 x 3)



中国 大連市 (500t/日 x 3)

自己紹介



日立造船株式会社

ICT推進本部
ICT事業推進部
IoTシステムグループ長

山田 浩章

スマート工場

～生産の最適化・自立化～

社内IT、外部サプライヤーとの連携

(例：在庫が少なくなったら、自動的にサプライヤーに発注)

ERP-MES-PLC-生産機器-
センサー連携

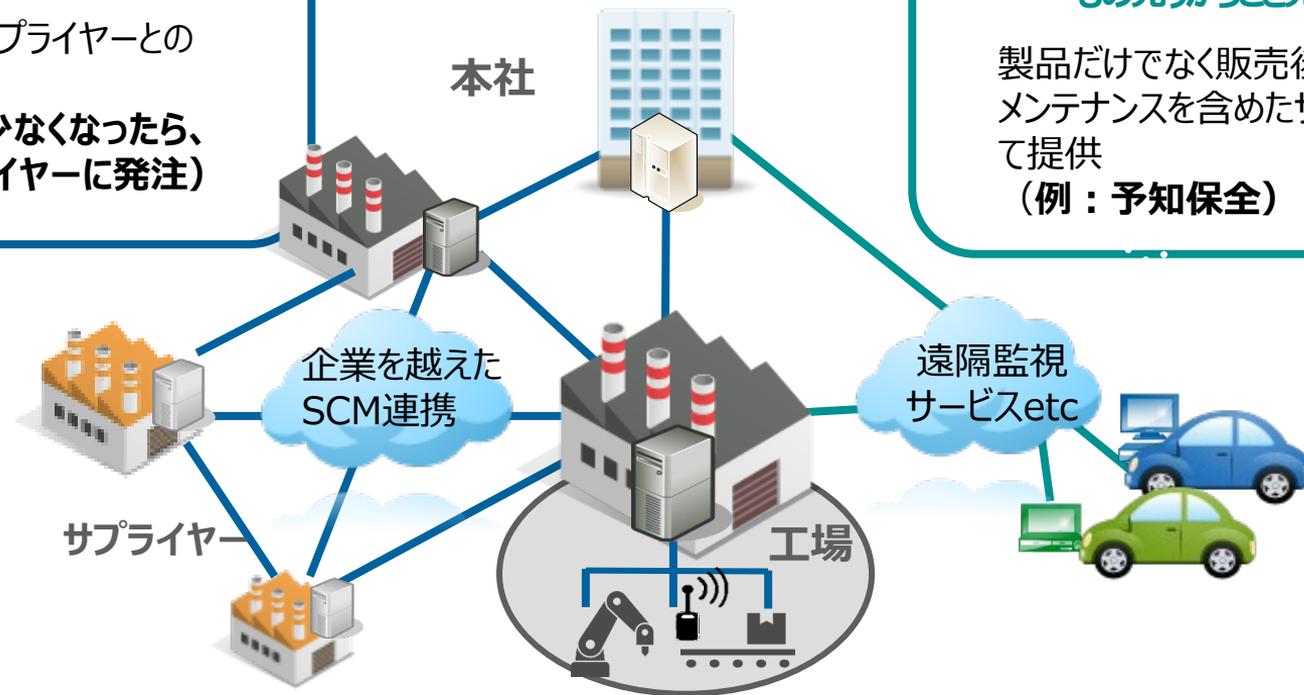
本社

サービタイゼーション

～もの売りからこと売りへ～

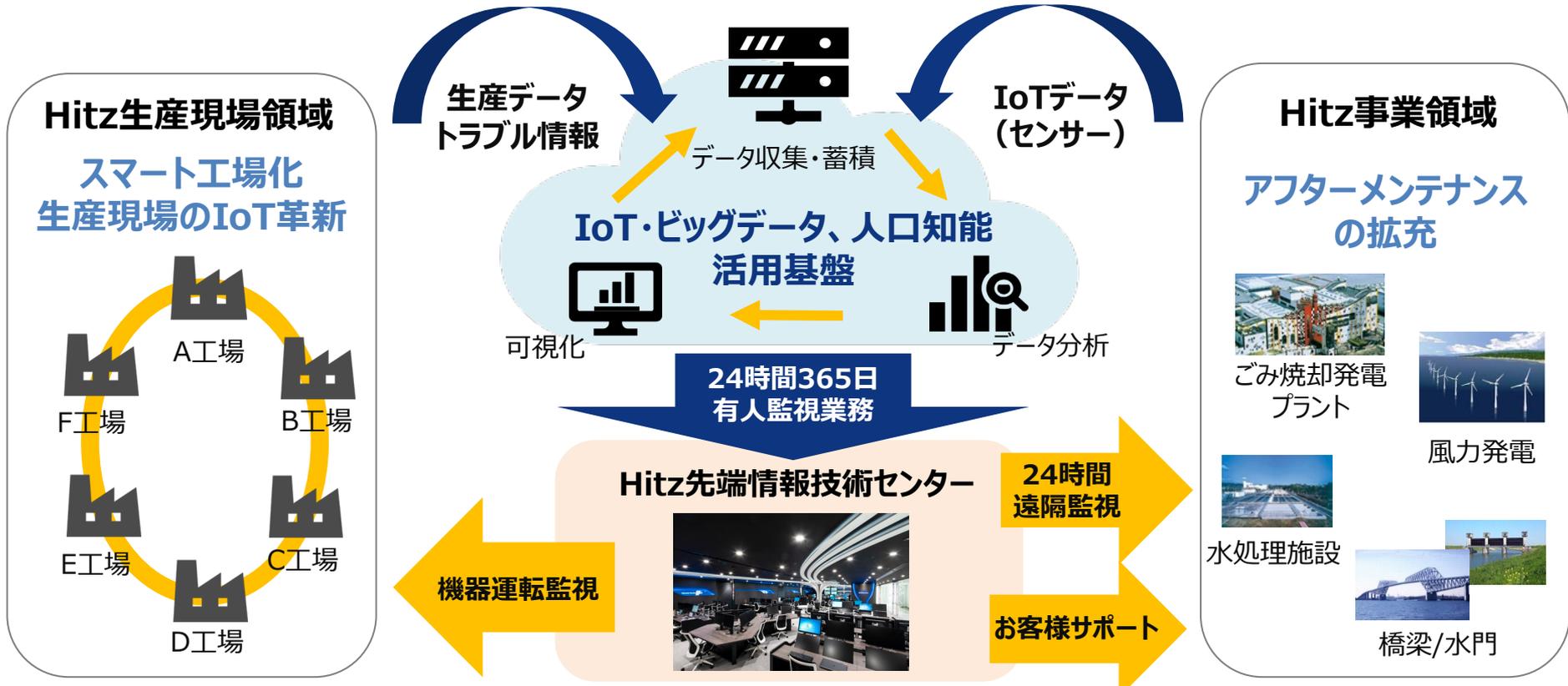
製品だけでなく販売後のアフターメンテナンスを含めたサービスとして提供

(例：予知保全)



2018年10月 Hitz先端情報技術センター設立





IoTデータ活用基盤の構築により、製品の高付加価値化や自社工場の生産性の向上を目指す

1

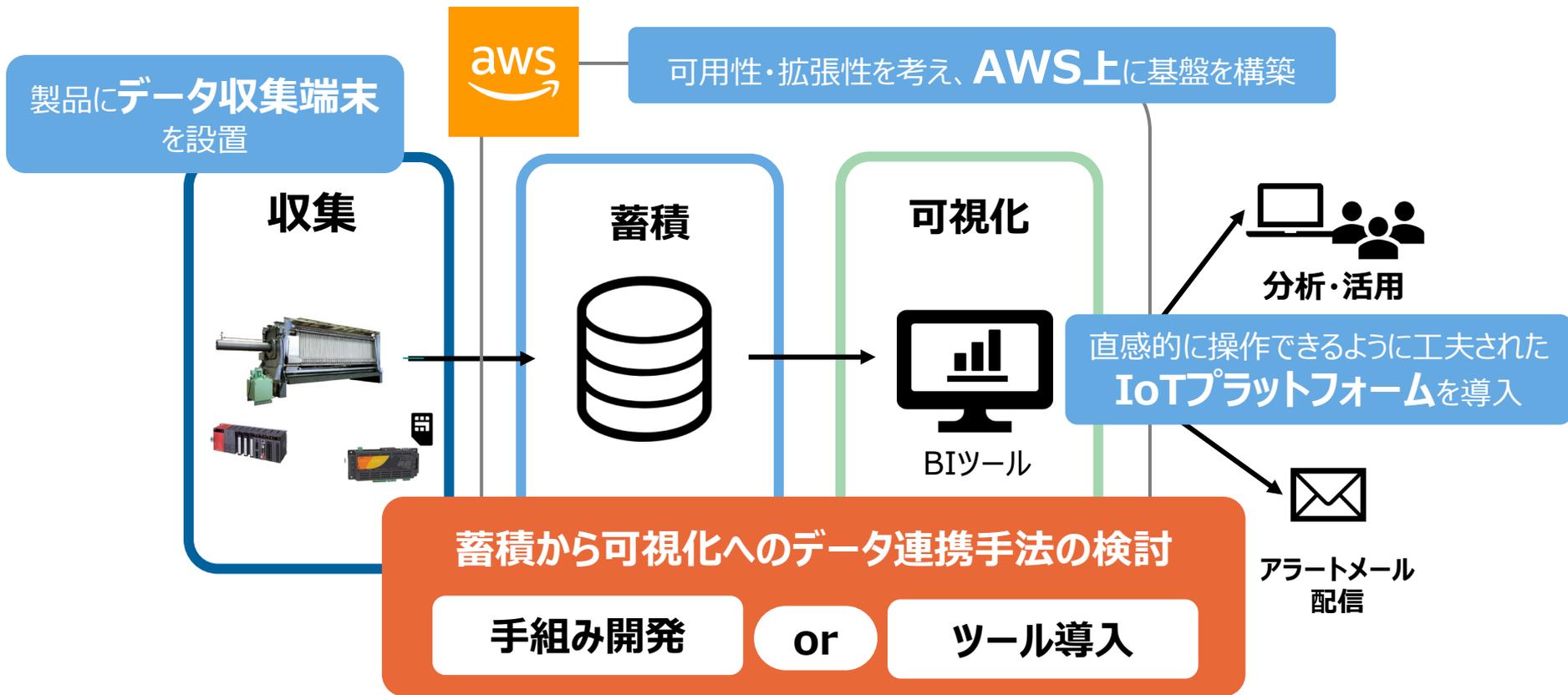
会社紹介

2

データ活用基盤の構築～DataSpiderの導入とその効果～

3

今後の取り組み



データの「収集」、「蓄積」、「可視化」から構成

検討の背景①

今後、データを活用する製品は増加する

検討の背景②

製品ごとにデータのフォーマットは異なる

検討の背景③

新たな製品が増えるたびに
可視化システムとのデータ連携を**開発するのは大変**

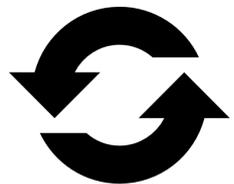
連携のたびに新たな作り込みを必要とせず、効率的に開発が可能なツールがベスト！



AWSとの親和性



AWS製品との連携機能や
トリガー機能あり



多様なデータフォーマット
の変換



フォーマットの変換が
GUI設定のみで可能



初期コスト



必要な機能だけを
選択可能

AWS製品とデータを簡単かつ柔軟に連携できるDataspiderがベスト！



故障対応の
効率化



計画的な保守

予防保全・アフターメンテナンスの拡充

製品・サービスの高付加価値化を実現



構築期間はわずか**1カ月**



初期導入コストを**大幅削減**



サンプルシナリオ数が多く、初めてでも**設定が容易**

1

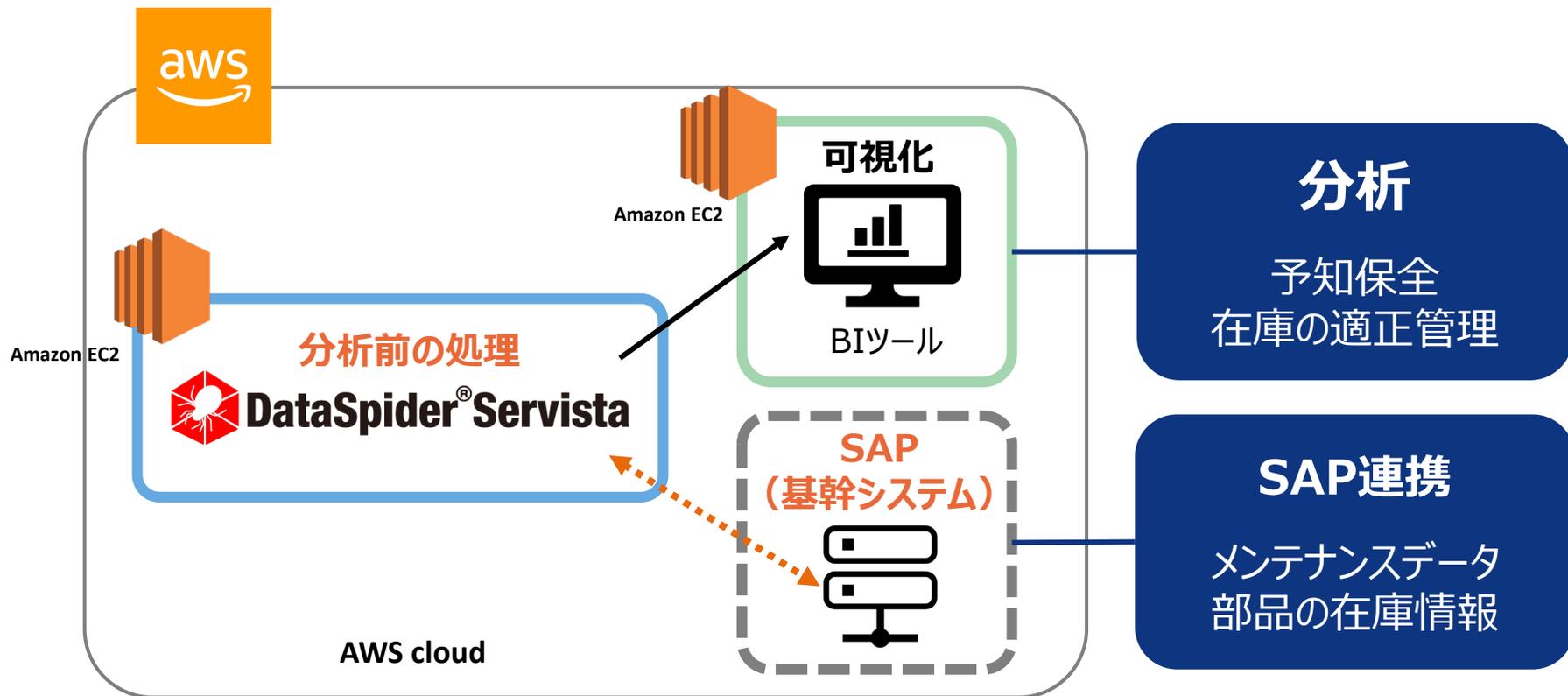
会社紹介

2

データ活用基盤の構築～DataSpiderの導入とその効果～

3

今後の取り組み



DataSpider Cloudの活用

- 利用しやすいライセンス体系の提供やAWSとのネットワーク接続がより簡単になれば、今後連携の負荷が増えてきた際には、DataSpider Cloudの活用も検討したい。

JSON形式への対応

- DataSpiderには現状JSONアダプタがないため、JSON形式で送られてくるデータを連携するには加工が必要。JSONアダプタが提供されれば、さらに効率的に開発が可能になる。

地球と人のための技術をこれからも

日立造船はつないでいきます。かけがえのない自然と私たちの未来を。

Hitz
Hitachi Zosen

日立造船株式会社

<http://www.hitachizosen.co.jp/>